



きずな

特集 ネット社会と人権

安心してつながり合える
ネット社会

INDEX

- 2 学びは、いつも人との出会いから
八木 早希さん(フリーアナウンサー)
- 3 他者を想像して思いやる
ネット社会に向けて
白石 善明さん(神戸大学大学院工学研究科 准教授)
- 4 インターネットにおける
人権侵害の現状と防止
篠原 嘉一さん(NIT情報技術推進ネットワーク株式会社
代表取締役)
- 5 インターネットと人権
～ネット依存の実態～
三原 聡子さん(独立行政法人国立病院機構久里浜医療セン
ター 主任心理療法士)
- 6 スマホ時代の子育てを考える
松田 直子さん(NPO法人イーランチ 理事長)
- 7 HIV陽性者の人権を考える
～治療の進歩だけではエイズの問題は
解決しない～
高久 陽介さん(NPO法人HIV陽性者ネットワーク・ジャンプ
プラス代表理事)
- 8 情報ぶらざ



インターネットの利用人口は、年々増加し、大人から子どもまで広く普及しています。しかし、その匿名性やだれでも情報を受信・発信できる容易さから、誹謗中傷や差別を助長する書き込み、子ども同士のネットいじめなど、人権に関わる様々な問題が発生しています。本号では、インターネットとの関わり方について理解を深め、安心してつながり合えるネット社会について考えてみましょう。



Profile

1978(昭和53)年米国ロサンゼルス生まれ。小学校3年間を韓国ソウルで過ごす。毎日放送アナウンサー、日本テレビ「NEWS ZERO」キャスターを経て現職。著名人へのインタビューをはじめ、国内外の取材多数。コミュニケーションに関する講演も行う。NHK「ぐるかん」、関西テレビ「胸いっぱい」、サンテレビ「歯っぴいライフ」等レギュラー出演中。

この人に
聞く!

学びは、いつも 人との出会いから

フリーアナウンサー 八木 早希 さん

現在は、フリーアナウンサーとして幅広い分野で活躍する八木さん。多文化に触れた経験をもとに人権講演にも積極的に取り組んでいます。また自身の活動の様子や思いをブログを通して発信しています。

幼少期、学齢期に多文化に触れて感じたことは

学校のクラスでもアジア人は少なく、こちらから言葉で何かを発信しない限り、そこにいるのかわからないのか「インヴィジブル」見えない存在」だったように感じます。

そんな中、アジア人が存在を示せる武器がありました。それは「九九」です。簡単な掛け算も計算機を授業に持ち込むのが一般的な欧米で、九九を暗記し即時に答えの出せるアジア人は、「かっこいい!」と目置かれる存在になりました。日本では「普通」のことと考えるものも、色々な文化の中では「個性」になり得る、新鮮な気付きでした。

コミュニケーションをとる際は、とにかく明確に、はっきりと意見を言葉にする努力をしました。同時に、「自分の物差しで人を計らないこと」にも気を付けました。文化や風習の違う人を「理解する」に至らなくても、少なくとも、相手の居場所を心の中に取っておいてあげることは、異文化の人々が共存するために必要なことだと思います。

海外での経験や気づきは、八木さんどのような影響をもたらしましたか

いろんな場所や人に出会えたことは、人と直に繋がる喜びを教えてくださいました。例えば、韓国では1990年代まで日本の歌謡曲などが規制されていましたが、韓国の人々は、美空ひばりさんや安室奈美恵さんの曲を聴いたり、歌ったりしていました。「人々の文化への興味は国境を越える!」これが、触れないとわからない本当の姿でした。それが現場に向き、人々の思いに直接触れる機会が与えられるアナウンサーという仕事をめざすことにもつながりました。

テレビやネットで情報発信をする際に心掛けていることは

「誰も傷つけないこと」です。私の発言によって誰かが不快な思いをしないか、いつも意識しています。常に受け取る方に思いを馳せて、言葉や文字を発信したいと思っています。

アナウンサーの仕事のやりがい、マイクを持つことで会話ははずさない人と出会い、言葉を交わす機会が与えられることです。どんな方からも学ぶことがあります。いろんな考え方や思いに触れることで、自身の生き方が柔軟になるように思います。そんな思いをブログに綴り発信することで、テレビやネットを通して多くの方とつながり、元氣や笑顔を届けられたらと思っています。

今後の活動の抱負は

今は、2歳と3ヶ月の二人の男の子の育児が生活の中心ですが、母になって初めて気付くことも多くあります。より視野を広げ、特に女性たちが元氣になるような活動や発言ができるアナウンサーになりたいです。また、次世代を担う子どもたちが世界とつながる手伝いが出来たらと思います。

他者を想像して思いやるネット社会に向けて

神戸大学大学院工学研究科准教授

白石 善明 しら いし よし あき さん

機械が人間のモラルを監視

インターネットが普及している現代社会において、ヘイトスピーチやフェイク・ニュースを取り締まる法律を制定する国があります。日本をはじめ世界的に、法律とは無関係に、従来から規約やガイドラインに沿って不適切コンテンツは削除されていきました。最近では、不適切コンテンツをAI（人工知能）で検知する技術が現れてきています。

他者との関わりで身につく感覚

ある程度の年齢になってくると、人と人が面と向かっているときに、相手の気分を害したり、相手を傷つけることを直接言うのは難しくなってきます。子どものころから家族、学校の先生、友人、地域の人たちから直接たしなめられたり、その様子を見ていううちに身についていく感覚によるものでしょう。リアルな世界で理解できて、ネットの世界では

そうならないのはなぜでしょうか。

想像する力…リアルとネットの違い

相手が目の前にいるリアルな世界では、その発言によってどういう反応をするのかが目に見えてわかります。しかし、ネットの向こうにいる人の反応はわかりません。目の前にいる相手には言わないようなことをネットの中で言ってしまうのは、反応が見えるかどうかによるところが大きいかもしれません。また、リアルな世界では目の前でそのようなことが起これば周囲が介入できるのに、ネットの世界では周囲の目に止まらないこともあります。

周囲の態度…ネットが与える影響

「子は親の鏡」という言葉があります。日々の親の生き方から子どもは良いことも悪いことも学ぶ、と言われ、子どもの善悪などの判断基準は親の普段の態度から形成される

と考えられます。

ネットの中で不適切な行動をとる人たちに囲まれて過ごした人と、そうでない人では後々の倫理観に違いが出てくるといわれます。ネットを使える人は、親以外の他者からも学ぶことができる年齢のはずです。ですから、親以外の他者も含めた周囲を見て本人が学ぶと考えれば、ネット環境で育ってきた人の倫理観はそうした周囲の人たちの影響を大きく受けるものなのです。

人の力で開拓するネット社会

今、日本は秩序あるネット社会に向けて知恵を蓄積している途上です。今後の個人の想像力と周囲の態度がネット社会の将来の様相を決めることになるでしょう。

自分の権利を侵されないようにすること、他人の権利を侵さないようにすることの注意喚起は広く行われるようになりました。それが実体を

伴うように充実させていくと同時に、人間の行動の善し悪しを機械（AI）に判断してもらうのではなく、人間が協力してネット社会の中で周囲に気を配れる世界としていきたいものです。

教材での学習に加えて、参加体験型学習（グループワーク／ワークショップ）を通じて、他者を想像する気付きを得ること、また、継続して学び続け、他者に良い影響を与えるコミュニケーションでの経験をたくさん重ねていくことが必要です。



Profile

1973(昭和48)年京都市生まれ。愛媛大学卒業、徳島大学大学院修了。博士(工学)。近畿大学、名古屋工業大学での勤務を経て、2013(平成25)年より現職。電子情報通信学会情報通信システムセキュリティ研究専門委員会委員長などを務める。専門はセキュリティとネットワーク、ITシステムの利用者心理を研究。

インターネットにおける人権侵害の現状と防止

N-T情報技術推進ネットワーク株式会社代表取締役

篠原 嘉一 さん
しのはら かいいち

SNSの普及による課題

スマホの普及により、SNSがいつでもどこでも利用できるようになりまし。パソコンが主流だった頃は掲示板やブログが主流で、書き込む人と、その投稿をあえて見に行く人との情報共有という場であったため、ある程度、インターネット上の情報に興味のある人たちの間だけでの関係でしたが、SNSの普及により、書き込みに興味のない人にも見えてしまう状況となっていました。

これは、スマホアプリの機能が関係していて、SNSアプリを入れると、アプリが電話帳のデータと紐付き、同じ電話番号を登録しているSNSユーザー同士を「知り合いかも」「友達かも」として結びつけてしまうのです。そのため、見られて困るような内容の投稿が、周囲の人に見つかり、投稿者そのものが非難さ

れることとなるのです。掲示板ならまだしも、SNSならさらに投稿は見つかりやすいのです。

コミュニケーション能力の重要性

インターネットが関わる人権問題はとても身近なところにあり、その時の気分で投稿してしまうと、問題発言と捉えられてしまうことがあります。人を傷付けてしまう投稿は、やがて自分に返って来てしまい、将来の自分に対する人権侵害になりかねないのです。投稿するなど言うことではありません。自分の意見を伝えることは大切ですが、コミュニケーションが人同士でしっかりと出来る力があれば問題は起きにくいのです。ネット越しでしか意見が言えない状況で発する意見は誤解を招きやすいのです。幼い頃から人との繋がりがや会話を大切にし、コミュニケーション能力を養ってから

SNSをするなら人を傷つけるようなコメントを書くことはないのでしようが、ネットは本音を言える場だと勘違いしてしまうことが危険なのです。

我が子を守るために

我が子にスマホを持たせることを躊躇する保護者も多いですが、スマホが危険なわけではありません。知らない人と繋がってしまうSNSアプリを安易に使うことが危険なのです。しっかりと、アナログ的に人との関わり方を体験してから、SNS



を始めれば、加害者にはなりにくく、調べ物のためにスマホやネットを使うことには問題はないのです。

我が子を被害者にも加害者にもさせないために、まずはアナログな経験を体験させることが大切です。友達と遊ぶ、喧嘩をしても構わない、自分の力で相手にちゃんと謝ることが出来る子どもにしなければいけないのです。社会に出て孤立や対立をしてしまう大人をつくらないためにも、デジタル時代だからこそアナログなマナーやモラルの学習は大切なのです。

Profile

IT関係事業者とwebの有効利用を研究するため、情報技術推進ネットワークを開設。学校関係者やIT事業者にネット被害の現状を伝えるため、関係機関と連携し被害防止に尽力中。兵庫県人権啓発協会人権啓発アドバイザー等を兼任。



インターネットと人権 ネット依存の実態

独立行政法人国立病院機構
久里浜医療センター 主任心理療法師
三原 聡子 さん

日本のネット依存の現状

日本におけるインターネット（以下、ネットとする）の急速な普及はめざましく、総務省発表の平成28年通信利用動向調査（総務省、2017）によると、2016（平成28）年の1年間に最低1回、ネットを利用したことのある6歳以上の割合は人口の約83・5%にのぼることです。

このような急速なネットの普及により、ネット依存はすでに深刻な問題になっています。

また、青少年のネット依存の実態に関しては、2012（平成24）年に実施した調査※1において、全国の中高校生約10万人から得たデータをもとに、ネット依存が強く疑われる者が51万8千人にのぼるという推計が発表されました。

さらに、5年後の2017（平成29）年の同調査では、ネット嗜癖※2が強く疑われる中高生は93万人にのぼると推計されており、この5年間で約1.8倍に増加していることが推察されます。

ネット依存患者への治療と支援

久里浜医療センターは、2011（平成23）年7月に日本で最初にネット嗜癖専門治療外来を開始し、現在、年間約300名の新規受診者が訪れています。患者さんのおよそ8割が、中学生、高校生、大学生です。性別では男性が約9割を占めています。

初診時の問診を見ると、ほとんどの受診者に、ネット依存に関連して起きている問題として、成績低下や遅刻、欠席といった学校に関連する問題が起きています。また、不規則な食事や昼夜逆転、家族への暴言・暴力、引きこもりといった、身体の健康や本人の将来、家族関係に関わる深刻な問題も半数以上のケースに起きています。

当院では、患者さんに合わせて治療方法を選択し、個人精神療法や認知行動療法、デイケアへの参加、入院治療、ご家族のための家族会の開催などを行っています。

ネットをよりよく使うために

今後ますます技術の発展に伴い、その負の側面であるネット依存関連問題はさらに大きくなっていくものと予想されます。ネットは、現実生活をより良いものにするサービスを提供してくれるツールではありますが、使い方を間違えると、現実生活に問題を生じさせるものにもなります。ネットと上手に付き合っていくために、ネット依存への予防教育が望まれます。

※1インターネット使用実態に関する厚生労働省研究班の調査（厚生労働省研究報告書）
※2嗜癖とは、ある特定の物質や行動、人間関係を特に好む癖のこと



Profile

臨床心理士。筑波大学大学院修士。大学卒業後、私立精神科病院を経て、2009（平成21）年より独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター勤務。2011（平成23）年ネット依存専門治療外来開設時よりネット依存の治療・研究に携わる。ゲーム使用障害に関するWHO東京会議（2014）、ソウル会議（2015）、香港会議（2016）、トルコ会議（2017）に参加。

インターネット・
モニタリング事業の
実施について
兵庫県健康福祉部
社会福祉局人権推進課

1 事業の目的

インターネットの普及に伴い、その匿名性、情報発信の容易さから、個人の名誉を侵害したり、差別を助長する表現等、人権に関わる様々な問題が発生していることから、ネット上の書き込みをモニタリング監視することにより抑止効果を図るため、インターネット・モニタリング事業を実施します。

2 事業の内容

（1）モニタリング

① 検索項目
A.. 在日外国人に対する差別的表現

イ.. 部落差別等の同和問題に係る差別的表現

② 検索回数 月2回

（2）市町職員研修の実施



スマホ時代の子育てを考える

NPO法人イーランチ 理事長

まつだ なおこ
松田直子さん



なぜ子どもたちはSNSへ気軽な投稿をするの？

今、子どもたちの間ではTikTok(ティックトック)※1をはじめ、様々なSNSが流行っています。多くは他愛のない遊びの範疇にあるものですが、投稿の中には個人を特定できるものもあり、一度インターネットに載せた情報には「拡散性」や「ずっと残り続ける」「記録性」があることを考えると心配です。どうして子どもたちは、SNSへ気軽に投稿するのでしょうか。子どもたちの心理を推測すると、そこには安易な「自己顕示欲」と「承認欲求」が隠れているように思います。多くのSNSには、「いいね!」といった、承認の気持ちを伝える機能がついています。自分の投稿にたくさん「いいね!」がカウントされることで、ある種の承認欲求を満たしているのかもしれない。また逆に日常で周りから認められる経験が少ないと、ネットの中の軽率な行動に繋がっていく可能性も考えられます。

ネットいじめの解決に必要なこと

「自然体験や生活体験が豊富な子どもや、生活習慣が身についている子どもほど、自己肯定感や道徳観・正義感が高くなる」という調査結果が国立青少年教育振興機構から出ています。※2 ネットに心無い書き込みをして攻撃するネットいじめの解決は簡単ではありませんが、子ども一人ひとりの道徳観や正義感を高める地道な子育てが、解決のための大きな要素だということを裏付けています。

また「お手伝いをよくしている子どもや、生活習慣が身についている子どもは、携帯電話やスマートフォンが気になったり、操作することが少なくなる」という報告もあります。ゆっくり夜更けに輝く星を見るなどの自然体験は、塾やゲームに忙しい子どもたちにとっては得がたい時間ともなるので、大人が意識して体験の場づくりをしたいものです。また、ナイフや包丁で野菜を切るなどの生活体験の機会も、親に見守る気持ちの余裕がな

いと作れません。食器を揃えたり、植物やペットの世話したりするなどの小さなお手伝いをたくさんさせて、うんとほめてあげれば承認欲求を満たす機会となるでしょう。

大切なのは豊かなコミュニケーションと実体験

情報モラル教育と聞くと、難しく感じてしまう方も多いと思いますが、自然体験や生活体験、日常のお手伝いをたくさんさせて、豊かにコミュニケーションを取りながら子どもたちの生活を楽しむという、昔からの当たり前の子育てこそが、情報化社会を生き抜く力を育むことにつながるのだと思います。

※1 ショート動画配信アプリ
※2 「青少年の体験活動などに関する実態調査」(平成26年度調査)

Profile

青少年のためのインターネット安全教室は、年間約160回開催。現在、全国の幼稚園や保育園で、保護者向けセミナー「スマホのある子育てを考えよう」を実施中。静岡県ネット安全・安心協議会委員。2014(平成26)年男女共同参画社会づくり活動に関する静岡県知事褒賞「チャレンジの部」受賞。

きずな図書館

親子で学ぶ
スマホとネットを
安心に使う本

著者/鈴木 朋子(著)・坂元 章(監修)
発行所/株式会社技術評論社



今やスマホとネットは、それらに触れないで生活する方が難しいと感じるくらい普及しています。スマホとネットは、正しく使えば、生活を楽しく豊かにしてくれます。大人がスマホとネットを楽しむ姿を見ている子どもたちが、「使ってみよう」と思うのも当然です。

スマホやタブレットを使う子どもが増え、どの親にも「子どもが悪影響を受けないか」「ネット犯罪に巻き込まれないか」という心配があります。ネット上のトラブルを防ぐためにも、子どもにスマホとネットの危険性をきちんと伝え、安全に使うためのルールを作ることが必要です。

本書は、スマホとネットを活用する際のセキュリティやネット犯罪対策について分かりやすく解説するとともに、子どもが安全にインターネットを利用するために、親はどうすればよいかを実例を交えてまとめられています。スマホとネットを安心して利用するために、親子で一緒に読み、考えてみてはいかがでしょうか。

きずな TOPIC

エイズ/HIV感染者
の人権

HIV陽性者の人権を考える 治療の進歩だけではエイズの問題は解決しない

NPO法人日本HIV陽性者ネットワーク・

ジャンププラス代表理事

高久陽介さん

HIV・エイズとは

HIV・エイズについて、皆さんはご存知でしょうか。「HIV」というウイルスは、体内に入ること
で徐々に免疫機能不全を引き起こします。進行す
ると、「エイズ」と総称される命に関わる様々な症
状に至ります。HIVは感染者の血液や精液に含
まれ、これらが性行為等により粘膜や傷口と接触
することによって感染します。

HIV感染の有無は、保健所や医療機関での血
液検査によってのみ、判定することができます。感
染の不安があるからと言って、インターネット等
で症状をいくら調べても判断することはできませ
ん。また、現在では治療法が確立しており、毎日の
服薬によってHIVの働きを抑えることで、(完治
こそできないものの)非感染者と変わらないレベ
ルで元気に暮らすことができます。さらに、治療に
よってHIVを抑制している限り、他者に感染さ
せることもなくなります。したがって、健康という
側面から言えば、HIV感染のリスクがあれば(エ
イズを発症する前に)早く検査を受けて自分自身
の感染に気づき、早く治療を受けることが、本人
の健康のためにも、また他者への新たな感染を防
ぐためにも重要です。

HIV陽性者を取り巻く現状

このように治療が進歩し余命が長くなった今
でも、私たちHIV陽性者(HIV検査で陽性と
分かった人たちは)、ときに様々な課題に直面しま
す。先述のような正しい理解がまだ十分に浸透し
ていないために、就労の場で不当な解雇や内定取
り消し、異動などの問題が起きています。また、長
く生きていればHIV以外にも様々な疾患にかか
りますが、医療従事者であってもHIV感染症に
関する基本的な知識をもっていないことがあり、
診療拒否につながっています。インターネット上
でも、HIV感染者に対する誹謗中傷の投稿など
が後を絶ちません。

正しい理解に向けて

現在も、日本では年間約1400名が新たにH
IV陽性と判明しており、HIV・エイズとの闘い
は過去の問題ではありません。むしろ、治療が進歩
した今だからこそ、正しい理解と差別の解消が置
き去りになっていたことが浮き彫りになっている
のです。HIV・エイズの問題は、人としての在りよ
うや、どのような社会を私たちは望むのか?とい
うことを、いま改めて問うているように思います。

Profile



2001(平成13)年のHIV陽性判明をきっかけに、HIVの予防啓発や陽
性者支援などの活動に参加。2008(平成20)年にジャンププラスの専
従スタッフとなり、2014(平成26)年より代表を務める。HIV陽性者が
秘密を抱えることもなく、社会的な不利益を受けることもなく、自立し
たあたりまえの生活ができる社会をめざして活動中。

きずな映画館

かぞくいろ

「RAILWAYSわたしたちの出発」
池袋の跨線橋の下を、貨物列車が
鉄輪を響かせ駆け抜けていくシーン
から物語が始まります。北は稚内か
ら南は枕崎まで、この線路がつないで
いるのです。ローカル鉄道にまつわる
人々のドラマを描く『RAILWAYS
S』シリーズの最新作は、この長大な
線路の一区画をなす「肥薩おれんじ鉄
道」を舞台にしています。かつて鹿児
島本線だった海沿いの単線を、1と2
両編成の気動車が走るのどかなロー
カル線です。

夫の急逝でシングルマザーとなっ
た晶は、連れ子の駿也とともに夫の
故郷鹿児島へ疎遠だった義父と三人
で暮らし始めます。父親の影響で電車
が好きな駿也を乗せて走りたいとの
思いから、晶は「肥薩おれんじ鉄道」の
運転士を志します。それは義父が40
年近く打ち込んできた仕事であり、
亡き夫が少年時代に憧れた仕事でも
ありました。

遙かな距離と時間をこえて、故人
の愛した一筋の線路が、ばらばらだっ
た彼らをつないでいきます。大切な人
を失った悲しみを引きずったまま、そ
の弱さを認め合うことで「かぞく」に
なっていくのです。「かぞく」がともに
歩むために、血のつながりよりも大切
なものが、
この映画に
は描かれて
います。



© 2018「かぞくいろ」製作委員会
監督: 吉田 康弘
2018年日本映画、120分
11月30日全国公開
神戸国際松竹・
TOHOシネマズ西宮OS他

みんなで人権を考えよう「人権のつどい」を開催

- 日時** 12月5日(水) 13:30~16:20(13:00開場)
場所 兵庫県公館 大会議室 〒650-0011 神戸市中央区下山手通4-4-1(地下鉄「県庁前」駅おりてすぐ)
内容 ○「のじぎく文芸賞」表彰式
 ○「チキンガーリックステーキ」アカペラLIVE
 ○人権講演会演題「人権をみんなのものにした人、エレノア・ルーズベルト」
 公益財団法人 人権教育啓発推進センター 横田 洋三 理事長

申し込み方法

はがき、FAX、メールで受付(先着順)。郵便番号、住所、名前、電話番号「つどい参加希望」を明記の上、下記までご連絡ください。

※定員500人 参加費無料 ※資格 兵庫県内に在住、在勤、在学の方

【締切】11月26日(月)(必着)

【送付先】〒650-0003 神戸市中央区山本通4丁目22番15号 県立のじぎく会館内(公財)兵庫県人権啓発協会 研修部
 FAX 078(242)5360 ☐ info@hyogo-jinken.or.jp

12月10日~16日は「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」です

日本政府は、拉致被害者に関する捜査・調査及び情報収集活動を進めており、今後の動向が注目されます。政府認定拉致被害者17人のうち、兵庫県関係者では有本恵子さん、田中実さんの二人が認定を受けています。

拉致問題は一刻も早く解決しなければならない人権侵害問題です。この機会に、拉致問題についての関心と認識を深めましょう。

詳しくは [政府拉致問題対策本部](#) [検索](#)



EVENT GUIDE

イベントガイド



イベント名 兵庫県政150周年記念 県民連携事業

世界をつなぐ多文化共生イベント わ〜るど・にじいろ・まつり2018

日時 11月10日(土) 12:40~17:00

場所 関西学院大学教育学部(西宮聖和キャンパス) ※最寄駅は阪急今津線門戸厄神駅

内容 「つなげよう!みんなの「わ」」
 ・多文化体験コーナー ・わ〜るどキッチン ・みんなで学ぼう! など ※入場無料

問い合わせ わ〜るど・にじいろ・まつり実行委員会事務局

☐ w_n_m_2018@icloud.com

※その他のイベント情報は、当協会ホームページ「研修会・イベント情報」をご覧ください。

ラジオ関西「谷五郎のこころにきくラジオ」(毎週月曜 10:00~15:00)で、
 14:35 頃から「きずな」の記事等を紹介しています。

HALF TIME



先日、ベビーカーに1歳ぐらいの男の子を乗せた親子連れと同じ車両に乗ることがありました。

電車が動きしばらくすると、男の子がぐずり始め、母親は必死にあやしていましたが、とうとう大きな声で泣き始めてしまいました。母親は周囲に気を遣い、なんとか泣き止ませようと、自分のスマホを男の子に持たせました。すると、あんなに泣いていたのが嘘のようにピタリと泣き止み、スマホの小さな画面を食い入るように見ていました。スマホは、

こんな小さな子にも子育て中の親にとっても魅力的なアイテムなのだと感じました。

インターネット利用人口も年々増加し、利用者の年齢も低年齢化しています。自転車の乗り方を一つひとつ教え、交通ルールを守ることを約束するように、子どもたちがスマホやタブレットを使い始める時に、正しい使い方とルールを教えること、そして、大人が安全に使っている姿を子どもたちに見せることが大切だと感じています。(西村)

